



Nippon Professional Baseball Organization

Hp: <https://npb.jp/>

ココロ動く、未来へ。
スカパー！

2021年9月15日
セントラル野球連盟
パシフィック野球連盟
スカパーJSAT株式会社

7、8月度「スカパー！サヨナラ賞」受賞選手発表

セントラル、パシフィック両リーグが制定する月間「スカパー！サヨナラ賞」(協賛:スカパーJSAT株式会社)の7、8月度受賞選手が決定いたしました。受賞選手には、スカパーJSAT株式会社よりトロフィーと賞金30万円が贈られます。

～ セントラル・リーグ 受賞選手 ～

大山 悠輔
(阪神タイガース)
初受賞

大山選手は、7月12日(月)阪神甲子園球場で行われた対横浜 DeNA ベイスターズ 13 回戦、3 対 3 の同点で迎えた 9 回裏 2 死 1、3 塁の場面で打席に立つと、センター前への強烈な安打を打ち、チームを劇的な逆転サヨナラ勝利に導いた。

横浜 DeNA の投手陣を攻略できない阪神は、3 点のビハインドを追ったまま 9 回裏を迎えると、相手は守護神の三嶋投手を投入。2008 年以來となる前半戦を首位で折り返したい阪神は、2 死 1 塁と後がない状況を迎えたが、その直後から代打・佐藤輝選手、近本選手、糸原選手、マルテ選手が 4 者連続安打を打ち一気に同点とし、2 死 1、3 塁の一打サヨナラの場面で 4 番の大山選手へ繋ぐ。球場全体に緊張感が漂う中、大山選手は初球を振り抜くと、打球は見事センター前へ放たれた。4 連打の勢いそのままに 4 番打者の一振りが、チーム全体を歓喜に包んだ。

阪神からのスカパー！サヨナラ賞受賞は、2019 年 7 月度のソーラー氏以来となり、大山選手は初の受賞となった。

～ パシフィック・リーグ 受賞選手 ～

高濱 祐仁
(北海道日本ハムファイターズ)
初受賞

高濱選手は、7月6日(火)旭川スタルヒン球場で行われた対埼玉西武ライオンズ 10 回戦、3 対 3 の同点で迎えた 9 回裏、2 死 1 塁の場面でセンターフェンス直撃のサヨナラ二塁打を放った。

北海道日本ハムは 1 点ビハインドの 3 回裏、清水選手と王選手の本塁打で逆転に成功。しかし、4 回表に 1 点差にされると、8 回表に守備の乱れから同点に追いつかれ、試合は振り出しに。雨が激しさを増す中、試合は最終回に突入。北海道日本ハムの守護神・杉浦投手が上位打線を三者凡退に抑え、負けをなくすと、その裏、埼玉西武のマウンドには開幕から 39 試合連続無失点のプロ野球記録を更新中の平良投手。先頭打者が出塁するもあとが続かず 2 死 1 塁で打席には高濱選手。カウント 1-2 と追い込まれながらも 5 球目を捉えた打球はセンターフェンスを直撃し 1 塁走者が一気に生還。値千金のサヨナラ打で劇的な幕切れとなった。

高濱選手はスカパー！サヨナラ賞初受賞となる。

月間「スカパー！サヨナラ賞」は、月間を通じて最もインパクトのあるサヨナラ打等を放った選手に贈られる賞として 2012 年に制定されました。スカパー！は、2006 年シーズンから「プロ野球セ・パ両リーグ公式戦全試合、プレイボールからゲームセットまで放送」(※トップ&リレー、録画放送を含む)を掲げており、「試合終了最後の 1 球まで真剣勝負をお届けするスカパー！」から多くのファンに、プロ野球中継最大の魅力を伝えることができ、それがプロ野球界発展の一助となると考え、本賞へ協賛しています。また、同様の趣旨のもと 2009 年シーズンから、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打等を放った選手に贈られる賞として「スカパー！ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」を制定しています。





Nippon Professional Baseball Organization

Hp: <https://npb.jp/>

ココロ動く、未来へ。
スカパー!

(参考)過去の受賞選手

【月間スカパー！サヨナラ賞】

2012年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	中村 紀洋 (横浜DeNA)	田中 賢介 (北海道日本ハム)
5月度	森野 将彦 (中日)	A.バルディリス (オリックス)
6月度	和田 一浩 (中日)	M.ホフパワー (北海道日本ハム)
7月度	石原 慶幸 (広島東洋)	柘田 慎太郎 (東北楽天)
8月度	阿部 慎之助 (巨人)	柳田 悠岐 (福岡ソフトバンク)
9月度	新井 良太 (阪神)	松井 稼頭央 (東北楽天)

2015年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	平田 良介 (中日)	松田 宣浩 (福岡ソフトバンク)
5月度	福留 孝介 (阪神)	中川 大志 (東北楽天)
6月度	井端 弘和 (巨人)	吉田 裕太 (千葉ロッテ)
7月度	藤井 淳志 (中日)	中村 剛也 (埼玉西武)
8月度	坂本 勇人 (巨人)	柳田 悠岐 (福岡ソフトバンク)
9月度	中村 悠平 (東京ヤクルト)	B.レアード (北海道日本ハム)

2013年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	福留 孝介 (阪神)	松田 宣浩 (福岡ソフトバンク)
5月度	畠山 和洋 (東京ヤクルト)	浅村 栄斗 (埼玉西武)
6月度	M. マートン (阪神)	高橋 信二 (オリックス)
7月度	丸 佳浩 (広島東洋)	嶋 基宏 (東北楽天)
8月度	長野 久義 (巨人)	浅村 栄斗 (埼玉西武)
9月度	石原 慶幸 (広島東洋)	片岡 治大 (埼玉西武)

2016年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	杉山 翔大 (中日)	吉村 裕基 (福岡ソフトバンク)
5月度	坂本 勇人 (巨人)	井口 資仁 (千葉ロッテ)
6月度	鈴木 誠也 (広島東洋)	B.レアード (北海道日本ハム)
7月度	筒香 嘉智 (横浜DeNA)	B.レアード (北海道日本ハム)
8月度	脇谷 亮太 (巨人)	森 友哉 (埼玉西武)
9月度	ギャレット (巨人)	細谷 圭 (千葉ロッテ)

2014年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	B.エルドレッド (広島東洋)	A.ジョーンズ (東北楽天)
5月度	梵 英心 (広島東洋)	加藤 翔平 (千葉ロッテ)
6月度	嶺井 博希 (横浜DeNA)	今宮 健太 (福岡ソフトバンク)
7月度	福留 孝介 (阪神)	斉藤 彰吾 (埼玉西武)
8月度	J. ロペス (巨人)	田村 龍弘 (千葉ロッテ)
9月度	T. ブランコ (横浜DeNA)	松井 稼頭央 (東北楽天)

2017年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	鵜久森 淳志 (東京ヤクルト)	聖澤 諒 (東北楽天)
5月度	荒木 貴裕 (東京ヤクルト)	駿太 (オリックス)
6月度	亀井 善行 (巨人)	福田 秀平 (福岡ソフトバンク)
7月度	大松 尚逸 (東京ヤクルト)	J. アマダー (東北楽天)
8月度	宮崎 敏郎 (横浜DeNA)	栗山 巧 (埼玉西武)
9、10月度	安部 友裕 (広島東洋)	A. デスパイネ (福岡ソフトバンク)



Nippon Professional Baseball Organization

Hp: <https://npb.jp/>



(参考)過去の受賞選手

【月間スカパー！サヨナラ賞】

2018年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	下水流 昂 (広島東洋)	森 友哉 (埼玉西武)
5月度	山下 幸輝 (横浜DeNA)	清田 育宏 (千葉ロッテ)
6月度	山田 哲人 (東京ヤクルト)	上林 誠知 (福岡ソフトバンク)
7月度	下水流 昂 (広島東洋)	山下 斐紹 (東北楽天)
8月度	鈴木 誠也 (広島東洋)	Y.グラシアル (福岡ソフトバンク)
9、10月度	上田 剛史 (東京ヤクルト)	中島 宏之 (オリックス)

2021年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	亀井 善行 (巨人)	岡 大海 (千葉ロッテ)
5月度	岡本 和真 (巨人)	該当試合無し
6月度	大和 (横浜DeNA)	T-岡田 (オリックス)
7、8月度	大山 悠輔 (阪神)	高濱 祐仁 (北海道日本ハム)
9月度		
10月度		

2019年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	青木 宣親 (東京ヤクルト)	中田 翔 (北海道日本ハム)
5月度	高山 俊 (阪神)	辰己 涼介 (東北楽天)
6月度	原口 文仁 (阪神)	鈴木 大地 (千葉ロッテ)
7月度	Y.ソラーテ (阪神)	中村 剛也 (埼玉西武)
8月度	石川 慎吾 (巨人)	清田 育宏 (千葉ロッテ)
9月度	N. ソト (横浜DeNA)	E. メヒア (埼玉西武)

2020年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
6、7月度	西浦 直亨 (東京ヤクルト)	A. ロドリゲス (オリックス)
8月度	上本 崇司 (広島東洋)	山川 穂高 (埼玉西武)
9月度	吉川 尚輝 (巨人)	茂木 栄五郎 (東北楽天)
10、11月度	高橋 周平 (中日)	井上 晴哉 (千葉ロッテ)

(参考)過去の年間大賞 受賞選手

【スカパー！ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞】

受賞年	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
2009年度	亀井 義行 (巨人)	井口 資仁 (千葉ロッテ)
2010年度	天谷 宗一郎 (広島東洋)	小久保 裕紀 (福岡ソフトバンク)
2011年度	長野 久義 (巨人)	松田 宣浩 (福岡ソフトバンク)
2012年度	和田 一浩 (中日)	中田 翔 (北海道日本ハム)
2013年度	長野 久義 (巨人)	浅村 栄斗 (埼玉西武)
2014年度	福留 孝介 (阪神)	松田 宣浩 (福岡ソフトバンク)
2015年度	雄平 (東京ヤクルト)	柳田 悠岐 (福岡ソフトバンク)
2016年度	鈴木 誠也 (広島東洋)	吉村 裕基 (福岡ソフトバンク)
2017年度	宮崎 敏郎 (横浜DeNA)	栗山 巧 (埼玉西武)
2018年度	下水流 昂 (広島東洋)	森 友哉 (埼玉西武)
2019年度	高山 俊 (阪神)	鈴木 大地 (千葉ロッテ)
2020年度	西浦 直亨 (東京ヤクルト)	井上 晴哉 (千葉ロッテ)